

意見書案第1号

令和5年3月29日提出

令和5年3月29日可決

提出者	市議会議員	新井美加
	同	藤江彰
	同	佐藤祥平
	同	林幸一
	同	宮崎裕紀子
	同	角田修一
	同	新井美咲子
	同	小林久子
	同	小曾根英明

新型コロナウイルス感染症の後遺症への対応強化を求める意見書

新型コロナウイルス感染症の罹患者の中で、疲労感・倦怠感などの罹患後症状、いわゆる後遺症を訴える方が増えている。

実際に、倦怠感、呼吸困難感、集中力の低下、記憶力の低下、睡眠障害など、仕事や学業の継続が困難になる方も多いとされており、後遺症は日常生活への影響が非常に大きい。

感染拡大から3年が経過し、新型コロナウイルス感染症への向き合い方も変わる中で、後遺症に悩み、生活に大きな影響を受けている方々の治療等の確立は大変に重要な課題である。

よって、国においては、新型コロナウイルス感染症の後遺症対応強化のため、以下の事項について求める。

記

- 1 新型コロナウイルス感染症の後遺症の発生状況について、実態調査を推進すること。
- 2 治療の標準化により、後遺症に対応できる医療機関や相談窓口を拡充すること。
- 3 自己免疫疾患との関連など、新型コロナウイルス感染症による後遺症の原因究明と新たな治療法の確立に向けた研究予算を確保すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和5年3月 日
衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣 あて
総務大臣
厚生労働大臣

前橋市議会議員 阿部忠幸